

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成24年7月12日(2012.7.12)

【公開番号】特開2011-141220(P2011-141220A)

【公開日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2011-029

【出願番号】特願2010-2630(P2010-2630)

【国際特許分類】

**G 0 1 N 30/86 (2006.01)**

【F I】

G 0 1 N 30/86 R

G 0 1 N 30/86 D

G 0 1 N 30/86 G

G 0 1 N 30/86 V

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月29日(2012.5.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

この時間範囲の設定作業は分析装置を制御するための制御用アプリケーション上で行われるが、これは従来、ユーザが参照用クロマトグラムを参照しつつ、所定の入力欄に時間を示す数字を入力することで行っていた。このような従来の分析装置制御用アプリケーションの画面例を図 8 に示す。ここでは、画面左欄において、クロマトグラフ測定時間が「セグメント 1」= [0.000 - 10.000](分)、「セグメント 2」= [10.000 - 20.000](分)と分割され、「セグメント 1」において「イベント 1」及び「イベント 2」という測定が、「セグメント 2」において「イベント 1」という測定が手動で入力された例が示されている。

なお以下では、所定の時間範囲内において行われる複数の測定のうち一定の測定条件で行う測定のことを「イベント」と呼ぶことにする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

しかしながら、このような従来のクロマトグラフ質量分析装置において質量分析器の測定条件を設定する際には、ある測定条件に対応する測定の時間範囲を手動で指定する必要があったため、作業が繁雑になりやすく、また、入力ミスが生じるおそれもあった。そこで本願発明者は、ユーザがより直観的また簡潔に測定条件を設定することができる分析装置制御システムを提供することを目的とした発明を既に行い、本願発明に先立って出願を行っている(特願2009-209835)。このシステムでは、図 9 に示すようなグラフィカルユーザインターフェースが提供され、以下のような効果が得られる。